

# 日本と同じくらい長時間労働

●ジューディ・トレスさん(コロンビア)●

## 家族の愛情表現は豊か

非婚率は約30%で、子どもができて結婚しないケースもある。

カトリックではあるが、離婚率は約60%と高い。女性は昔ほど我慢せず、嫌と思えばすぐ出て行く。離婚が増えるのは結婚10年目くらいで、子どもをひきとるのは母親が多い。養育費を払わない父親が大半で、腕の良い弁護士への相談が必要となる。

### 【家庭生活】

平均的な月の生活費は約6万円で、家計は男性が握っている。共働きなら一緒に銀行口座に入金して、男性が管理する。

専業主婦はいる。現在は国の経済状態が悪いので共働きは約30%と少ないが、仕事があれば女性の70%くらいは働きたいと思っており、実際に好況期はそうであった。

家事は、専業主婦がいれば女性が行うが、共働きなら手分けして行うかお手伝いさんを雇う。お手伝いさんの普及率は40%くらいと一般的で、1カ月5〜8千円と非常に安い。

子育ては、母親がお手伝いさんが行い、父親はほとんど行わない。

### 【老後】

定年は男性65歳、女性55歳。老後の生活には年金がある。会社に時間をとられてできなかったことがあるので、老後はとても楽しんでいる。例えば、自営業を行ったり、家族との時間を大切にしたりしている。

老親の面倒は孫がみる。孫(夫婦)が祖父母の家に移ってくることになる。子(夫婦)は家から出て行って、違う人生を楽しんでいるからである。

### 【労働】

定時は8時から17時か18時。残業は日常的に発生しており、一日12時間くらい働いている。残業代は、割増賃金でももちろん支払われる。

賃金は男性のほうが高く、雇用機会も男性のほうが多い。管理職には女性もいるが、男性のほうが多い。

### ●日本の社会と人について

日本に対して羨望があった。産業

が発達していて、ロボットが全部行い、手でやる仕事はないと思っていた。日本では長時間働くが、コロンビアでも同じくらい長時間働く。

日本は教育が素晴らしい。時間も長く総合的に色々教えてくれる。日本で子どもに教育を受けさせたかったのだから。

日本人には閉鎖的なイメージがあったが、来てみると、気軽に挨拶してくれたり、自分を表現したり、独自の温かなコミュニケーションがあった。すごいと思うのは、言葉が通じなくても優しく接してくれることで、忍耐強くわかるうとしてくれる。外国人や外国語に興味があり、覚えることに意欲的である。

不思議に思うのは、子どもを抱きしめる等、愛情表現しないこと。

### ●大切にしていること

それは家族。子どもたちが居るだけでも幸せを感じます。私はいつも明るいタイプなので、音楽でも友達でも、ちょっとしたことでも喜びに繋がります。

みなさんへのメッセージとして、家族に対しての愛情表現(例えば、抱きしめたり、キスしたり)がもっとあれば、より温かな気持ちになれますよ！



プロフィール

### Judy Torres

女性・40代／「コロンビア・バラナキー」(カリブ海側の港町)／日系三世コロンビア人の夫と息子(上智大学)・娘／工場勤務(来日前は貿易会社秘書)／滞日9年

### ●お国の事情

#### 【結婚】

婚姻年齢は、平均20〜22歳くらい。平均的な子どもの数は3〜4人で、大学進学が結婚で別居となる。

# 「仕事か家庭か」という対比はヘン

●アタ・メメット・シナンさん(ドイツ)

## 男性は会社にしかな友人がいない

加はあるが、資金はカップルで負担する。最近では、インターネットを利用して結婚相手を探すことも多い。平均婚姻年齢は、ドイツでは、30歳前後。

### 【家庭生活】

ドイツでも、少子化が社会問題になっている。原因は女性のキャリアアップ志向。産後のケアは法律では整備されているが実情は、微妙。トルコでは、子供は平均2人くらいだが、地方ではもっと多い。

ドイツでは、シングルが増加している。同棲、事実婚が多い。婚外子も多い。事実婚の場合、子どもの姓は両親が決める。結婚(届出)したカップルの中で、離婚は増加している。離婚したら、子の90%は母親と暮らし、養育費は父親が負担。

ドイツでは、生活費は半分ずつ負担。収入の差には関係ない。家事はカップルで均等に分担する。専業主婦は、ドイツでは少ない。トルコでも、少なくなっている。

ドイツでは、男性の育児休暇が法

制定されており、取る人もいるが、キャリア上では、不利になることもある。

### 【老後】

ドイツでは、65歳で定年。63歳から年金がもらえるが、満額支給は65歳から。

### 【労働】

勤務時間は、週38〜40時間。ドイツでは、ホワイトカラーではマネージャーのみ残業。工場では残業はない。公務員は残業なし。賃金に年功序列制度はない。

### 【女性の地位と役割】

ドイツでは、男性と比べ不利とはいえず、キャリア志向の人はいる。賃金は、男女で違う。これは、仕事の内容による差別といえる。

### ●日本の社会と人について

「日本人は勤勉」「ハイテクの国」「みんな英語ができる」などというイメージをもっていた。大きなギャップはなかった。

日本での暮らしで困ったこと。やはり

り街へ出るという暮らしがみられること。洗濯機が水で洗うことなど(ドイツでは、温湯で温度調節可能)。そして、女性の社会的地位が低いこと、男性は会社にしかな友人がいないこと、街に緑や公園が少ないことにも驚いた。しかし、日本の社会は安全で、犯罪が少ない。基本的に人に親切で相手の立場を考慮する(ドイツ人ははっきりモノを言うくせがあり、けんかもする)。

日本国憲法が、戦争放棄をしていることは知っている。過去の過ちは忘れてはいけない。

日本では、みんな残業をするのがあたりまえ。ドイツでは、もっと家庭を大切にしている。しかし日本では仕事優先されているようだ。そもそも、仕事と家庭生活を対比するのがおかしい。個人の生活と安全は、なによりも大切なものである。

### ●大切にしていること

「生きていく充実感」を感じるのには、たとえば、シングルのときならいつも友人に会えること。でも今は二人だから、さびしくはない。大切なことは、二人の健康。けんかをしないこと。秘密をもたないこと。そして、友人と家族も大切にしたい。そのつぎに大切なことが、お金です。



プロフィール

Mehmet Sinan Ata

男性・30代/ドイツ(6歳までトルコ)/電機メーカー勤務/ドイツ生まれのトルコ人の妻/滞日9カ月

### ●お国の事情

#### 【結婚】

トルコの都会では自分で見つけるが、地方では親などの紹介もあり、結婚相手についても、親の同意が必要。ドイツで親は、結婚に対して口出しすることはないし、結婚式への両親の参

## 「お互いのための時間」で生まれる豊かさ

●ザヌカ・ニラウラさん(ネパール)●

### 今を大切にしている幸せ

中から相手を探していく。

結婚は、個人だけではなく、家族と家族が結ばれることでもある。親戚になれば生活全般によく助け合う。夫の両親と同居することが多く、離れて暮らしていても強い影響を受ける。

離婚は多くないが、女性は経済的に自立できないので我慢しているというところもある。

#### 【家庭生活】

家事はお手伝いさんを雇うのが一般的。子育ては主に母親がするが、毎日親戚が手伝いに来てくれるので、心理的プレッシャーは少ない。私も先日まで、名古屋に住む義理の妹の出産の手伝いに行っていた。「義理の妹の手伝い？」と日本の方は驚くが、ネパールでは当たり前のこと。最近はず育てを手伝う父親も増えている。

#### 【老後】

定年は60歳。年金が少ないので、暮らしは大変。余裕があれば、海外旅行に行くよりも、朝晩神に祈ったり、寺院を巡ったり、宗教書を読んで暮ら

したいと願っている。

老親の面倒は、息子の家族、親戚がみる。宗教上(ヒンドゥー教)、娘の家に住むことはほとんどない。

#### 【女性の地位と役割】

女性が働く機会は少なく、デモなどをしているが、まだ変わるのはいまだらう。農村では、妻が農作業をし、収入は夫が取るという問題や、1〜2年で学校をやめて労働させられる子どももいる。

#### ●日本の社会と人について

仕事に対する責任感や、気持ちを込めて働く点はすばらしい。ファーストフード店のアルバイトの若者たちが、まるで自分のお父さんのお店のようによく主体的に責任感を持って働くのを見て、本当に感心した。

不思議に感じるのは、みんなとても優しいのに、友人や家族でのつきあいが薄いこと。

ネパールでは、自分の友達を家族全員がよく知っていて、いつでも家に

上がつてもらう。日本の友達には、世話をしたりされたりということにとっても慎重で、玄関先までのつきあい、という感じがする。

大学で高校生の意識調査をしたたら、「この2年間父親と食事をしたことがない」と答えた生徒が3人もいたことや、モデルハウスで夫婦別の寝室があることに驚いた。まるで衣食住の便利のために家族がいるようだ。お互いがつきあうために、もっと時間をあげてもいいのではないか。

自分や家族の友人たちには「家は狭いけれど、心は広いから(笑)、いつでも来てね」と言っている。

#### ●大切なメッセージ

自分の現在を大切にすることです。

人生には、必ずしも自分の希望通りの立場が得られない時があります。例えば、大学院を修了して就職を、と思っても外国人女性にはとても難しい。そんな時でも「神様は私のためにこれを用意してくれている」と信じて、良いことを見つけているようにすると、見つけることができます。

今が幸せなら、いつも幸せ。次の瞬間も、その次の瞬間も、「今」です。



プロフィール

Januka Niraula

女性・30代／ネパール・カトマンズ／ファーストフード店アルバイト(大学講師を経て、国費留学生として来日、修士課程を修了)／ネパール人の夫と息子／滞日5年

#### ●お国の事情

#### 【結婚】

お見合い結婚が主流。都市部では25歳くらい、農村部では20歳くらいになると、両親や親戚が同じカーストの



# 本音を言ってくれないのは困る

●アリユワン・ジヨップさん(セネガル)●

## 生き生きしているのはおばちゃん子どもだけ



プロフィール

**Alioune Diop**

男性・30代／セネガル・ダカール  
／日本人の妻／アフリカンドラム  
とダンスのアーティスト(来日前も  
同じ)／滞日6年

### ●お国の事情

#### 【結婚】

セネガルにはアクティブな人が多  
い。日本人はよく「出会いがない」と  
いうが、ダカールの街へ出れば人がた

くさんいる、出会いがないなんてこと  
はない。気が合えば、つきあつて3カ  
月程で結婚してしまつたということも  
珍しくない。結婚には親の同意が必  
要だが、普段からオープンなつきあい  
をしている。田舎のほうでは15歳く  
らいでも結婚することがあるが、都  
会では、男性28歳、女性25歳くらいで  
結婚する人が多い。子どもは5〜6  
人が平均。離婚は増加しているよう  
だが、日本ほどではない。宗教上の理  
由もあり非婚や婚外子は少ない。

#### 【家庭生活】

家計は男性が管理して、毎日の生  
活費を出している。家事は女性の仕  
事。お手伝いさんがいる家庭も多い。  
子育ては、母が中心だが、きょうだい  
も多く、お手伝いさんや近所の人も  
見てくれる。父不在の母と子だけと  
いう場面はほとんどなく、みんなで  
しているという雰囲気である。

#### 【女性の地位と役割】

性別役割分業の根深い文化ではあ

るが、能力のある人は男女に関わら  
ずキャリアアップが可能という社会。  
どちらかというと日本のほうが女性  
の社会進出は難しいようだ。ただ専  
業主婦が多く、働く女性は少数だ。  
家庭での女性の地位は高く、子ども  
は母を尊敬し、感謝している。セネガ  
ルのミュージシャンは必ずといって  
いほど母をテーマにした歌を作ると  
いう。

#### 【老後】

平均寿命が60歳くらいということ  
もあって、定年は50歳と日本と比べて  
早くなっている。お年寄りを尊重す  
る社会なので、一人で孤独に死んで  
いくということはない。日本では孤独  
に死んでいく老人がいるのを知って  
驚いた。親の老後は一緒に住んでいる  
長男2家が面倒をみる人が多い。

#### 【労働】

一般的な勤務時間は9時から16  
時の7〜8時間で、残業はほとん  
どない。

### ●日本の社会と人について

世界史で日本は被爆国であり、平  
和憲法を掲げているというところを習  
った。来日前の日本のイメージは、み  
んなパソコンができるハイテクな国。  
サッカーの試合後自主的に掃除をし  
ている日本人をテレビで見ても、道徳  
的だと思っていたが、来日してみると  
そこまで道徳的でもないと感じた。

おとなしくて静かだというのは日  
本人のよいところだと思いが、本音  
をきちんと言ってくれないのは困る。  
そんな静かな日本人の中でも、子ど  
もとおばちゃんだけは生き生きして  
見える。肌が黒く身長も高いので電  
車の中などでも目立つ存在。多くの  
人は、横目で気にしながらも静かに  
携帯電話をいじっている。そんな中、  
子どもとおばちゃんは気軽に声をか  
けてくれる。

### ●大切にしていること

信仰を大事にし、信仰のおお  
りに生きていけば問題は起ら  
ない、問題は人間が持ち込むも  
のであるという。信仰が道徳に  
近い意味を持っているようだ。セ  
ネガルへ帰れば必ずモスクへ行き、  
日本にいる間は経典を読むこと  
で信仰心を高めようとしていること。

# モノを買い与えることが愛情?

●細川ザイナブさん(タンザニア)●

## 子どもの成長に合わせた働き方を



プロフィール

**Hosokawa Zainabu**

女性・40代／タンザニア・ビクトリア湖近くの農村／日本人の夫と二男一女／保育園パートタイム職員・英会話講師(来日前は農業・牧畜)／滞日7年

### ●お国の事情

#### 【結婚】

20年近く前までは、愛情とは関係なく親同士が相手を決めた。農村では、一夫多妻制(イスラム社会では4

人まで)が多かった。女性は夫からの婚資(牛)と引き換えに労働力として、その家の子どもを生むものと、教えられた。現在、田舎では見合い結婚が残っているが、都会では、女性が学業や仕事を続けたいので、結婚をしなかった。

離婚の原因は夫の酒乱や暴力が多い。離婚をした女性は偏見を持たれる上、子どもも父方で生活するため、経済上の理由から離婚を我慢する女性が多い。

#### 【家庭生活】

家計は男性が握っている。月の生活費は、農家の場合、砂糖、塩、灯油の購入代金として16000円くらい。田舎では、6歳頃から子どもが役割分担を決めて家事を手伝う。男の子は牛の世話、乳搾り。女の子は料理、水汲み、薪拾い、弟妹の世話などを行う。主婦は子育て、家事、農業と、機械化されない分、重労働である。

一夫多妻制では、姑に気に入られよ

うと嫁同士が張り合うなど、嫁姑問題がよく起きる。都会の就労女性は、お手伝いさんが子どもの世話や食事の準備をする場合が多い。近年、都会では父親の育児参加も多い。

#### 【女性の地位と役割】

小学校の教師、看護師のほとんどは女性。エリート的女性は活躍する場がある。また、子育てを終えた主婦が都会や村で起業をしている。刺繍で小物を作ったり、喫茶店を開いたりといった、小規模の店を経営。

#### 【老後】

財産相続のため最初の孫が祖父母と暮らす慣習。ザイナブさんも6歳から15歳まで、当時50代の母方の祖母と暮らす。

老親の介護は長男だけでなく、子どもたちや親戚中でみる。一人暮らしの老人は村中で面倒をみる。

#### ●日本の社会と人について

公共の乗り物が時間通りに来る

こと、公園や街、乗り物の中がきれいな事が印象深かった。日本は便利すぎるくらい便利だが、物価が高い。特に交通費。動くだけがお金がかかる。まだ使えるものが平気で捨ててあることに大変驚いた。モノを大切にしないことがとても不思議である。

女性が働くことは良いが、子どもが帰宅する前に帰るなど、もう少し働き方を成長に合わせて調節できるようにしたほうが良いと思つた。

また、日本では、親が子どもの機嫌を取り、モノを買い与えることが愛情だと勘違いしている。親は、子どもを褒めるときは褒め、叱るときは叱るべきである。もう少し家族間のコミュニケーションを大切にしたいほうが良い。

#### ●大切なこと

結婚後、夫の任地・ボリビアで3人の子どもを産み、その後、インドネシア、チリと15年間、地球のあちこちを移動してきたザイナブさん。信条は、「自分がオープンになれば、必ず友人ができる」ということ。「人が好きだから人との出会いを大切にし、家族を大切にしたい」と話す。世界中の国が住みやすく、安全で平和になることが願い。